

海田町まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 議事録(要旨)

開催日時	令和元年 11 月 20 日 (金) 14 : 30～16 : 00
開催場所	海田公民館 3 階会議室
出席者等	< 委員 > (敬称略) 池 本 良 教 (広島国際学院大学情報文化学部 教授) …会長 吉 田 栄 二 ((株)シーエル広島 代表取締役) 桑 原 強 (広島県地域政策局地域力創造課 政策監) 林 孝 (広島大学大学院教育学研究科 教授) 塚 田 邦 人 (広島銀行海田支店 支店長) 信 原 宏 (海田町消防団 団長) 徳 本 博 志 (レンゴー広島地域協議会) < 事務局等 > 西 田 祐 三 (海田町長) 櫻 竜 俊 (副町長) 佐々木 智 彦 (教育長) 鶴 岡 靖 三 (企画部長) 丹 羽 勤 (総務部長) 龍 岩 広 幸 (建設部次長) 鎌 田 浩 一 (企画課長) 吉 川 寛 (企画課主幹) 古 谷 旭 (企画課主任主事)
会議次第及び資料	【会議次第】 1 開会 2 町長あいさつ 3 議事 海田町まち・ひと・しごと創生総合戦略の平成30年度末時点の検証について 4 閉会 【資料】 海田町まち・ひと・しごと創生総合戦略の平成 30 年度末時点の検証について

会 議 記 録	
事務局	1 開会 定刻になりましたので、令和元年度海田町まち・ひと・しごと創生総合戦略会議を開会します。 本日は、ご欠席の方もおられますが、7名の委員にご出席をいただいております。それでは、開会にあたりまして、町長からご挨拶を申し上げます。
町長	(町長あいさつ)
事務局	それでは、池本会長、議事の進行をお願いいたします。
池本会長	2 議事 (1) 海田町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について 昨年度に続きまして、議事の進行をさせていただければと思います。どうぞご協力の程、よろしくお願いいたします。 では、さっそくですが、議事に入りたいと思います。 本日の議事は、『海田町まち・ひと・しごと創生総合戦略の平成30年度末時点の検証について』でございます。町長から説明をお願いします。
町長	(資料の説明)
池本会長	ご説明を受けて、委員の皆さん、質問、意見など積極的に議論いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。
吉田委員	商工会として、小規模事業者の廃業がすごく多い。町でも創業支援をやっており、商工会でも起業塾をやっているが、起業する人が少ない。 東広島バイパスができ、高架下は、グランドゴルフ場とか作るかもしれないが、商売人が何か有効利用できるような形を町が、国交省に言って、有効利用できる形をとっていただいて、そうすると新しく起業してみようと若い世代が出てくるかもしれないから、そのような形を是非おねがいしたい。
塚田委員	少子高齢化の中で、海田町は人口が増えており素晴らしいと思いますが、なにか要因があると思う。 暮らしやすさもあると思いますが、その中で世帯主さんの働く場所は、海田町なのか、広島市、呉市、東広島なのかというのはなにかデータを把握されているのでしょうか。
企画課長	夜間人口のうち、町外で日中働いている方は、通学も含めて6,500人規模ございまして、範囲的には広島市が多いのですが、熊野、呉、坂も含めて働いたりしており、その規模で稼いできているのとみております。
塚田委員	企業が海田に誘致できれば、さらに増えていくと思いますが、誘致するための土地、有効活用できるところを行政で把握していることはあるのでしょうか。
町長	海田町は13.79㎢と面積的には小さく、企業においても移転されているが、移動しながら古いところを改善される動きとなっています。 大手の話をすると、バイオ発電ができ、先にも新たな工場を移転の話がありますが、その移転後の跡地利用、また交通機関がうまくなれば、今は駐車場になっているところがまた展開していく。そういった動きの中で、高度に行くか、要するに用途変更という流れで、ハード的には宅地開発はありませんので、本町は動いていかないとはいえないと考えています。
塚田委員	人口が増えていくのはプラス材料になると思いますが、我々金融機関としても、色々な観点から人口増をどうしたらいいかと考えると空き家対策をどうするかが大きな課題となると考えます。 お客様のところで空き家があれば、不動産会社を紹介したりしているが、空き家をすべて把握するのは非常にむずかしい。

	不動産会社が持っている空き家や、高齢者が離れることによって空き家になるということもありますから、そのデータが多くなれば、また違うのではないかと思います。
町長	本町としても情報が欲しいところです。実際に出てきませんので。 だからそこをしっかりとりながら、聞き取りなどもしないといけません。 大事なのは暮らしやすさと、働きやすさという、この二面はどうしても考えていけないといけないのではないかと思います。ご指摘のとおりだと思います。
塚田委員	広島市内でも土地がないから企業は高層化しています。 町も土地が少ない中で、高層化できれば、それだけの人口がどんどん増えればできるのですが、中々難しいところですね。
町長	動きとしては、リフレッシュがかかっています。古い家もリフレッシュがかかるというのはやっぱりそれだけの活力があるのではないかと思います。
池本会長	吉田委員から、高架下の有効利用というお話があり、JR の高架下の利用というのが大都市でも進められています。狭い場所の活用が企業の規模によっても進められる環境、空き家対策は自治体規模にかかわらず必要で、政令市でも空き家バンクを作っているところもあり、独自の調査も必要となるのでは。 海田市地区の保全、宿場町としての観光化とか、賑わいをつくる点でも、周りに増えてきている空き家を元のままでどう活用するか、倉敷や尾道が成功していますが、若い人達が賑わいの場所をつくることで、お金の力で古民家の活用をしてきたこともあります。
町長	織田幹雄スクエアがありますね。これが駅から近いですし、駅にも大きいデジタルサイネージをちょっと考えている状況です。まあ、動くかどうかはわかりませんが、今のところはありますのでそういったところでプレゼンをかけながら、千葉家のすぐ横にありますから、ここを交流の拠点というような位置づけの中に置きながら、交流人口を増やしていくというような、ソフトを今入れようと現実には考えております。 また、西国街道ですね、神社仏閣はもう何百年と続いているのですが、そこへソフトが入らないと、祭りが入らないと色んな意味で交流できませんので、ここらもそういった意味の動きは、今作っているところであります。ここに書いてありますからね。千葉家住宅文化活動支援とですね。来年オリンピックがありますから、このオリンピックも目先の、来年の8月くらいまで色んなプログラムを作っていきますから、その中にソフトを入れながら、人をここへ集めてくるような動きを今考えてきておりますので、だからこの駅の北側がまた活性化してくるというような気がしています。
副町長	先ほど海田町の土地がないというようなお話があったと思いますが、今ちょっと説明がありましたように、令和2年の4月に海田公民館がオープンしまして、現在の公民館が空き家になります。令和4年には新庁舎が移転しまして、現在の庁舎は解体してなくなるわけですけど、そうするとこの土地と庁舎の跡地のまとまった土地が出てくるということで、これは今後どのように活用するかというのは、今後の町の大きな課題になってくるわけですけど、新しく人を呼ぶにも、例えば住宅地にする、賑わいの施設をつくるなど、そのような中で、どのように活用したらいいかというのを、アイデアやお知恵がありましたらご意見いただきたい。
池本会長	東部、西部ですかね、マンションが増えてきて。東部に向かって、戸建ての住宅が増えてきている。住宅経済の分野は私専門ではないのですが、いわゆるベッドタウンとして作られてきた大規模な宅地開発、同じような価格で、同じような世代が一斉に入居してきて、一斉に高齢化していくというのが、まさにそうなんですけど、中にはもう40年になって建て替えをするべきですけど、色々なことの関係もあって中々その話が進まない。問題になったのは、同じような事情を持つ人がやはり多いので、話がまとまらないと。 例えば、これはもう結果的な話ですけど、以前にもお話したことがありますけど、瀬野のみどり坂さんは、売れ行きがよくないと。で、バラバラに入ってくるんですよ、そうすると、色んな年齢層の人が住むわけですから、結果、長期的に言えば、一斉に高齢化するという事は避けられるだろうと。これを実現したのが、茨城にある龍ヶ崎という市の近くにあるニュータウンで計画的に、さまざまなタイプの賃貸、分譲、マンション、戸建て

	を織り込んだ町、ニュータウンづくりをしたんですね。将来像として、人口の、高齢化を抑えられると。そういう点でね、そういった土地の利用で例えば住宅を考えると、住んでいる延床面積でいうと本当に1割くらいしかないんですけども、色んな人が住みにくる。
町長	情報提供ですが、海田町は住宅の53%が借家で、47%が持ち家という比率です。 だから、借家が動けば当然今の53も動きますし、持ち家が動けばそういった形で動いていきますから、この先私も現実どうなるかわかりませんが、まあ比率はそうなっています。 現状は数値を確認しておりますから、町の今後の在り方というのは、色んな意味でどういう方法があるのかということを考えていかなければいけない。今のうちの実情です。
徳本委員	連合広島の徳本といいます。先ほどから雇用の安定といいますか、働きがいのある就労ということで色々ご意見や説明もありましたけど、やはりあの我々労働組合の連合でございますので、働く人が中心となった集団でありますけれど、雇用の安定という部分の話になりますと、例えばその、よく言われる給料が高い、働きがいがあるとか、そういうことでは、我々は違うと思っているんですよ。 それも当然働きがいの一つではあるんですけど、そういう部分じゃなくて例えばその、子育て世代とか、介護が必要な世代になった人々が、安心して働けるような、そんな職場づくりをして労働契約っていわゆるその、働く契約上の話ですけど、休暇の制度も入っていますね。そういったものを整備していくことも当然雇用の安定につながりますし、安心して働ける職場、これを作ることっていうのがやはり、住民の数もどんどん増えていきますし、転出が少なくなっていくことにつながっていくんだろーと思います。 今でも、働き方改革という言葉が大きく出ていますが、クローズアップされるのはやはり長時間労働の是正という部分がものすごく出ていると思うんですけど、我々としてはそこも非常に重要ですけども、そうじゃなくて多様に働く皆さん、先ほど言った育児・介護といった話もありますし、まあ外国人労働者の話もあります。実習生の話もありますけれども、こういった方々が安心して働けるような、そういったものを作っていくということが、そういう色んな様々な制度が増えれば、また、これを周知していくことが一番重要だと思っています。 誘致される企業にしても、今ある企業についても、こういう制度もあるということですね、困ったことがあったらこういう相談窓口があるんですよ。こういったところをしっかりと周知していくことで、みんなが安心して働ける職場が作れるんじゃないかと我々としては考えてまして、こういったところについて視点を持ってですね、取り組みをしていただければなと思っています。
町長	まさにそこがSDGsのターゲットに挙げてありますのでね、そこはまあしっかりと見ていけないといけない。
徳本委員	労働組合があるなしにかかわらずの部分で、やはり働くみなさんに、我々の伝言ですね、正規非正規にかかわらず、すべての働く人が幸せになれるような取り組みを、全体として進めたいというふうに考えております。その視点をちょっと持っていただければと思います。
町長	人生100年時代と言われていますが、100年を過ごすんじゃなくて、100年を過ごした時に、ああ幸せだったなという町であるというのが、一番理想的な町の作り方じゃないかなというふうには思っています。働き方のターゲットをうまく解消することが大事なところだというふうに認識しておりますので、しっかりと受け止めて町づくり、頑張っていきたいと思っています。
池本会長	働き方改革、働く場の改革だけでなく、安心して休める場というのはやっぱり、すごくいいでしょうね。そのために例えば先ほど説明された生涯学習の拠点というもので、スポーツも一つの柱になるでしょうし、魅力としてどのように整備されるか、そういう情報が今おっしゃられたように、いかに的確に発信されるかですね。 私もあの、今年の有給休暇の取得がまだ1.5日しか取ってないの。 法律が変わったので早く取れと言われていたんですけど、中々取れない。取れないことは事実だから取れないとは言うんですけど、昨年度からの有休が40日だったんですよ。 土曜しか取ってないんですね。ですから仕事上の問題ではあるんですけども、私はそ

	れなりに自分で時間をうまくこう作ってるつもりではいるんですけど、まあそれも深夜や早朝でしたけれど、多くの働く人って中々それができない状況に置かれているわけですね。安心して休みが取れる場っていうのはね、本当に行政がいかにか声をかけるか。 やはりここに来てもらいたいということを企業に伝えるということが大事だと思いますので、職場の問題じゃないぜひそういう魅力のあるところを。
町長	うちの実情を發表しましょう。
総務部長	海田町の年休取得については、年間15日という目標を立ててやっており、4年か5年かけてやってきたんですが、とても目標達成しているとは言えない状況です。 ただ取得してといっても、取らないですから。こちらのほうから計画的に、取らず、計画表を出させて取らすとか、管理職もちろん自ら取っていくと。そういったことをやっていって、少しでも目標が達成できるように、実はもう来年が計画期間なので、なんとか15日、達成したいんですが、非常に難しいのが実情です。
池本会長	私はまあ、特殊な職場ですから、中々我々、休暇を取るという発想があんまりなかった職なんですよ。私は中間管理職ですけど、突然取れと言われても、それは取れないんですね。で、嘘でいいから取れといわれても、嘘はつけないと僕は思いました。林委員どうですかね、取られました？
林委員	私はこの4月で退職、定年を迎えますので今年初めて年休が十何日か取れています。今年度の4月から制度が変わって、12月までは60日あります。で、来年、1月から1年間で40日。でも実際は取れないですよ。代休を取るのもできなくて。今日は代休って言いながら働いていましたね。 振ってもらったので少し、教育っていう観点からになるので、理想論を述べるということが非常に多いんですけど、子育ての世代から就学後の間のところですが、家族力、育给力。そこで終わってしまうとネウボラが就学前後の中で終わってしまうじゃなくて、その市町、それに関わった人たちが、就学後もまた関わっていくような形をとる部分で、また一つ考えてほしいなと思います。 それから、子育てっていうので一生懸命になるとですね、子供が阻害されるっていうのも、ないことはないと思うので。で、私が今、子育てっていうふうなことができるような、子供の視点に立った形で、どう考えていくのか。してあげる発想じゃなくて、やれる発想、子供たちがやれる発想というのを。今、4歳の孫がいますけども、こっちから何かしようとする、やっぱり気に入らなかつたら、首を曲げてしない。だからやっぱり、意思を向けるっていう、そのところを刺激していくところが大事なかなっていう気がします。 学校教育なんかでもそうだと思うんですけど、たくさん見て、あ、私あんなことできないなと思いながら、子供たち自身が、スマホなんかでもすぐやりますよね。学校教育の中で内容そのものっていうのは、決められたものでありますから、そのところに持ち込むのは大変だと思いますけど、色んな形で学ぶ、主体的で深い学びっていうのを。主体的に学べるような形で工夫を支援していくことが町に求められるのでは。そのためにしてあげるんじゃないかって、主体になってできるっていう。それが子供たちが主役になって、まあ保護者の方々にこう、一緒になってできるような、そういったところが一点。もう一点は、中間人口が多いって言われましたよね。その人たちが海田町で働くっていうことに魅力を感じる、働く、生涯学習っていう話に戻りましたけれど、そういうところを含めて、海田町の施設を使って、あと働き方改革で、早く戻るときにどっか飲みに行くっていうのもいいと思うんですけど、学び場の意味を広く。海田町の人だけが学ばんじゃなくて、来ている人も海田町で学ぶというふうな、それが提供できると、海田町の魅力っていうものも、増してくるのかな、と。海田町は交通の結節点がある、交流の中心となるようなそういう考え、そういう形で、考えていければなど。社会教育という観点から、大人の学びというのをやっていただければ嬉しい。 令和4年に広島県で社会教育研究大会が広島市であるんですけど、海田町もぜひ参加していただければと思います。
町長	教育長、一言お願いします。

教育長	教育長として心がけているのは、今いろんな問題があるので、それに対する不安が非常に強い、虐待、いじめ、不登校、発達障害。これらの不安にさらされている子供が非常に多いと思うので、人口を上げていくときに、交通の要所がありますけど、いざ教育をやろうとしたときに、本当にやりやすいか、どういう学校なのかというのがやっぱり一つの選ぶ観点になってくる気がしますので、そこだけは非常にケアしていこうと思っています。 だからうちのホームページの一番は、虐待はゼロにしよう、不登校は減らそう、いじめを見逃すことはゼロにしようというのを一番最初に挙げています。たまたまじゃないですけど、一応、学力についてはそういった基盤の上で、プログラムがきちっと組めていけば、それなりのことはできるんじゃないかと思っていますので、まず第一は安心・安全な学校。まだ深刻な状態にはなっていないと思いますが、そうはいっても子供のことから、何が起こるかわからないというのは、いつも神経をとがらせている状況です。
副町長	先ほどおっしゃった子育ては教育の原型みたいな話がまさに海田町でも必要になりかけています。今日、福祉保健部と話をしたばかりで、ネウボラだけではなく教育現場とも連携の基礎部分のところは検討したいと思っています。
信原委員	消防団団長の信原です。人口が増えているのに、消防団員が減っているという。まあ、どうしようもない状態ですが、昔は自営で働いている方が多かったんですが、でまあうちも自営業ですけど、町外がほとんどなんです。で、団員もサラリーマン化が激しく、2・30代の方に話を持ってっても、名前書いてくださいっていうくらい。 少し話したのが、居酒屋のほうに20歳以上の方が来られるじゃないですか、そこにも消防団員募集チラシを貼ったり、この間は寿司屋さんに行って、回る寿司屋で貼ってくれて言って、うちはいいですよって言われたんで。まあそうでもせんと、酔っとなる人をターゲットにするんじゃないですけど、人数を増やさんと町長の顔も立たんですし、2人でも3人でも増やして、頑張るようにはしたい。 団のほうでちょっとドローンとかいう話も出てですね。講習会行って、2,3人ほど講習を受けて業務専用ドローンを買って、災害の場所に行って飛ばして映像を送って持ち直そうかという話も出たりはしてるので。 やっぱり海田町だけこうパソコンをつかって、うちらも置いていかれそうになるんで得意な人に教えてもらって頑張っていきたい。
町長	頑張ってください。 今のドローンの話ですがね、昨年の7月、海田町は一番に飛ばしましたからね、ドローン。ボランティアで全部とっとるわけで、その動きを全部キャッチングして、土砂量がどれくらいか分析まで入ってきてますから。どのくらい流れてどのくらい残ってるのか。そういった動きを全部整備してきていますから、しっかり消防団ドローンやってください。
池本会長	若い世代、大学とか学生のほうが重視されている。私は残念ながら本学でということは言えない状況なんですけど、これまでの形を色んな形で例えば、消防団ですね、廿日市は大学と提携して女子大と提携して、20人くらいですね。まああの、できることをやるというふうになっている組織でありますよね。例えば、食事の伝票ですとか、身の回りのこととか、何かそういうね、専門学校とかと提携するってのを居酒屋に置くって発想は面白いと思いましたね。あのボランティアがね、今あの災害の時に機能しないというのがありますけれど、去年の西日本の豪雨のときは、行きたい、やりたいという動いた時期があって。そういう潜在的な、なんというんですか、思いがあると思うんですよ。それこそ組織的にやることにためらいがあると思うんですけど、そういうボランティア経験者なんか、体験入団みたいなね、色んな形で関心を持ってる時なんでね。今特別にアプローチできる時期だと思いますので、ちょっとお忙しい中だと思いますのでね。まあ、消防と連携しながらね。
町長	あの災害も、勧告指示を出すときも、消防団の人がおられないと中々職員うちも回らないですからね。うーん、丁寧に一件ずつこうピンポン鳴らして逃げましたかーって、回っていただいていますからね。あれくらいやらないと逃げませんからね。
桑原委員	他の市町の総合戦略の会議に、委員として出席させていただいて、まあここも、他の

	市や町の人と比較したいということ。今日の主な意見交換、総合戦略の評価について、2,3気づいたことだけ、ちょっとお伝えしようとおもいます。あの、29年度と30年度を比較して、状況、実績を評価されてるんですけど、元々評価自体を上げて、26年の基準値からのトレンドをしっかりと分析をしないといけないのかなと、特に30年度は、特殊事情がありなので5年後として図っていくこと、他はもうちょっと分析評価のところにあってよかったのかなと思いました。あと、令和元年度が最終目標で、令和2年度以降のまた新しく作るということで、その時のお願いというか、まああのできればですね、健康長寿の取り組み、色んなKPI作っているんですけど、KPIが結構ありますので、一度ちゃんと来年度の新しい計画立てておられると思うんですけど、そこで議論をして、絞り込んでちょっととがった計画にしたらいいんじゃないかというふうに思いました。 あとまあ評価の仕方も、例えばですよ、14ページに、新しい人の流れを作るでFacebookによる情報発信、情報発信数でKPIを作っていて、これも町からFacebookで色々発信した回数ですよ。じゃなくて高い評価は「いいね」をもらった数、それか試験の評価の手法、とにかく相手、対住民、町外にしろ、どうやってインパクトを与えたかというところが動きがわかるような評価手法というか評価の基準値みたいなものが、あったらいいのかなと思います。 あと最後なんですけど、これ今日委員7人の方が出席されているんですけど、全部で委員の方って何人いらっしゃいますか。
企画課長	11名です。
桑原委員	女性の方って何人いらっしゃいますか。
企画課長	数名いらっしゃいます。
桑原委員	いるんだったら大丈夫なんですけど、まあ複数名、半数までいなくても、もうちょっと増やしてもいいのかなと。他の市や町も、だいぶ女性の比率が増えていると聞いていますし、多いところだと、3分の1くらいが女性となっているところもありますので、そういったところは女性の視点が絶対必要ですので、次の計画の会議で委員をもう少し増やすとか、一つ考えていただければなと思いました。ありがとうございました。
池本委員長	私もちょっと気になることがあります。例えば情報発信、確かにこれはもう手前みそになりかねない一方的なデータ。それから今の世間的なアレで言えば、リツイート数とか、そういったところで評価が分かりますのでね。そのへんの工夫が必要になると思いますね。今後の5年計画が4月には、県レベルでも市町レベルもあるのでしょうか。
桑原委員	今年度改定するところは今年度改定しますし。1年ずらして来年度っていうところもありますし、海田町やほとんどのところが来年度。国の方針で動いていますね。
池本委員長	最終的には、ご指摘されたような実現できる課題とかを明確に絞った展開が、あの、まさにこう目標年次に向かって何を実現するのか、何が実現できなかったのか、それを解決しなきゃいけないのか、どうしなくちゃいけないのか。そのへんのこう、質的な評価をですね、量的な評価だけでなく、質的な評価を上げていくことが必要だと思います。一通り意見をいただきましたけれども、その他何か特に言っておきたいことがありましたらどうぞ。よろしいでしょうか。それでは、本会議はこれで終了とさせていただきますと思います。事務局のほうから何かございますでしょうか。
町長	基本的には暮らしやすさの実現と、安心・安全を守る防災にしっかり力を入れて、頑張っていきたい。
池本会長	それでは、本日の会議を終了します。みなさんどうもありがとうございました。